

高知工科大学におけるキャリア教育の実践について

高知工科大学社会システム工学科 フェロー会員 伊藤綱男

1. はじめに キャリア教育は、「望ましい職業観、職業に関する知識・技能を身につけさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育」と定義される。昨今の雇用情勢の変化により新卒求人が激減している。内定確保は学生にとって最大の課題となっている。本学では、キャリア教育の重要性及び就職活動支援の立場からカリキュラムの更新を行っている。本稿は筆者が担当した、平成 21 年度から新規に開講した 2 年生向けのキャリアプラン基礎及び 3 年生向けの学科主催のキャリアプラン 2 の授業を中心に、その実施状況を報告するものである。

2. キャリア教育・就職支援体制 1 年次から 3 年次までのキャリア教育・就職活動支援体制を示す。

表 1 高知工科大学におけるキャリア教育・就職活動支援

対象	科目等	主な内容
1 年次	スタディスキルズ授業（2 単位）	初年次教育として学習スキルと社会的スキルを学ぶ
	進路ガイダンス（単位なし）	就職支援部による大学生活と将来の進路
2 年次	キャリアプラン基礎（1 単位） （平成 21 年度新規開講）	自己分析、ワークショップ、専門カウンセラーによる面談、社会人基礎力を学ぶ
3 年次	キャリアプラン 1（1 単位）	就職支援部主催プログラム
	キャリアプラン 2（単位なし）	学科主催の就職支援プログラム
	インターンシップ（2 単位）	夏休み 2 週間の企業実習

なお、4 年次については就職希望者に対して個人面談や専門カウンセラーによる相談を行っている。

3. キャリアプラン基礎（3 年次のキャリアプラン授業の前提として 2 年次学生を対象に実施）

①開講の経緯 これまで 2 年次において正課としてのキャリア教育の科目が欠けており、3 年生時点の進路選択において意識が明確でない学生が散見されたことや、雇用情勢が逼迫していることもあり、進路・就職活動に向けてのより充実した取り組みが必要との観点から開講された。これにより 1 年次から 3 年次までの体系的なキャリア教育・就職活動支援体制が整った。

②授業の目標 ①ポジティブな自分自身の発見、その行動特性や価値観などを認識する。②さまざまな社会認識を通して自分の将来進むべき方向について検討する。③現状の自分の状態から掲げた自分のテーマや目標との関係で鍛えるべき課題や能力開発の課題を確認する。以上により、2 年生の段階から自己のキャリア形成について具体像を描くことを目標としている。

③授業の特徴 ①人間的行動能力の分析のための検査(HAME 検査)、個人やグループワークを通じて自己分析を深め、将来の進むべき方向をデザインし（将来設計）、今なにが必要かを掘りさげる。②キャリアカウンセラーとの面談を通じて悩みや課題、自分の進路を検討する。③実社会での必要な基本的な知識を経験豊かな社会人講師から学ぶ。働くことの意味、社会の仕組みや職業観、社会でのルールやマナーについて理解するなどを学ぶ。

④履修状況と評価 2 年生の履修登録者は 357 名であり、在籍者の 85.8%にあたる。出席状況も良好である。アンケートの結果、「大変良かった」との評価を受けた授業は、個人面談で 49.8%、その次が HAME 検査 47.2%、学科主催プログラムが 36.7%となった。全ての授業において、「大変良かった」、「良かった」の合計が 80%をクリアしている。受講生は二十歳前後の若者であり、自己分析や将来設計を考える機会を持つことができたことはタイミングとしては大変よかったと考えられ

る。また履修者全員に対して外部のキャリアカウンセラーによる傾聴等による個人相談を実施したが、このことは他の専門分野の授業にはない新鮮さが感じられたのではないかと考えられる。

表2 キャリアプラン基礎授業内容

回数	主なテーマ	授業形態	内容
第1回	ガイダンス	集合・講堂	授業の内容・進め方、スケジュール
第2回	人間的行動能力検査	集合・講堂	HAME 検査
第3回	自己分析・徹底棚卸し	ワークショップ	HAME 検査診断結果解説、自己紹介
第4回	社会人基礎力の学習	ワークショップ	自分の強みなどグループワーク
第5回	自分の将来設計の検討	ワークショップ	将来設計についてグループワーク
第6回	カウンセラーによる個人面談	面談室	入学動機、自分の生い立ち、目標など
第7回	社会人学①就職活動に向けて	集合・講堂	高知工科大学名誉教授による講演
第8回	社会人学②能力開発の課題と対策	集合・講堂	キャリアコンサルタントによる講演
第9回	社会人学③銀行業務とお金の話	集合・講堂	銀行の部長による講演
第10回	学科主催のプログラム	教室	内定獲得した先輩の就職活動の話

4. キャリアプラン2（社会システム工学科において学部3年生を対象に実施）

①**授業のねらい** 本授業のねらいは、キャリア教育を踏まえつつ、就職活動を控えた3年生に対し、内定確保を目指し実施している。単位認定はないが、就職希望者は全員参加するものとしている。学科長以下、学年担当教員、就職担当教員(4人の教員)が担当している。内定率90%以上を目標としている。

②**授業の構成** ①キャリア形成や就職活動支援のための講義(自己分析、会社研究、自己紹介書作成など)、②個人面談、③SPI 模擬試験、④インターンシップのためのガイダンス及び報告会、⑤外部講師による講演、⑥研究室ガイダンス、⑦模擬面接、⑧個別会社説明会であり、通年授業とし、全28回に及ぶ。SPI試験対策としてスキルアップ講座を別途設けており、全15回実施している。

③**外部講師** 国土交通省、高知県庁、ゼネコン、建設コンサルタント会社、建築設計事務所等の方々から、それぞれの職場での活動内容や就活対策について講演していただいた。学生との活発な意見交換が印象的であった。模擬面接では会社役員の方からの本番さながらの緊張感ある面接をしていただいた。

④**毎回の授業** 授業においては、就活に関する説明資料、採用に関する新聞報道記事、求人情報を含む各種データ等を配布している。提出物としては、志望先調査(面談に活用)、毎回の授業の感想、自己分析調書、インターンシップ報告会での報告書、進路先研究、自己紹介書、進路相談カード等である。またエントリーシートの添削、併せて、職業適性検査、社会人基礎力調査、アンケート調査等を実施している。

⑤**個人面談** 面談では、就職担当に加え、学年担当、研究室担当の教員が出席している。上記調書を考慮しつつ、志望業界・職種、希望勤務場所、現在までの取得単位数・科目内容、会社研究の状況、就職活動の状況、課外活動の状況等をヒアリングし、本人希望を踏まえ進路相談を実施している。

5. **今後の課題** 学生は、卒業研究の過程と就職活動を通じて、人間的にも大きく成長する。このことは、まさに実感することである。学生のもつ潜在力が一気に発揮され、成長の瞬間を目の当たりにする。就職は大学の教育課程の成果でもある。キャリア教育・就職活動の指導は大学教育にとって重要な位置を占めている。

本学は、遠隔地にあり、大都市圏に比して就職情報などの刺激が少なく、学生の就職活動も出遅れ感があり、そのギャップをいかに埋めるかが課題となっている。求人数の減少傾向、会社説明会・試験時期の早期化にも対応しきめ細かく就活指導を実施しなければならない。とりわけ建設業界の採用動向が気になりである。新たな求人先の開拓も急ぐ必要がある。今後更に学生の意識を高めつつ、社会から期待される人材育成を図ることが必要と考える。